

## 委員および一般からのご意見

委員からの流域委員会の審議に関するご意見、ご指摘 (2002/7/26 ~ 2002/9/9)

委員からのご意見、ご指摘はありませんでした。

一般からの流域委員会へのご意見、ご指摘 (2002/7/26 ~ 2002/9/9)

No.	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
1	岡本博志氏	×	7/29	今日の読売朝刊に出た一面広告を拝見しました。 一つご意見をお訊きしたいことがあります。 それは、なぜ河川について勉強したこともない、関わったこともない逢洋子さんのようなタレントをパネリストに選ばれたか、ということです。人寄せのためというのは、ここまで来た委員会の質を落としてしまいます。むしろ市民感覚を聞く上で、滋賀県か京都府の主婦生活者を選んだ方が良かったのではありませんか。
2	山田洋子氏	×	8/1	淀川は数少ない干潟があり、又、ワンドもある。その為、生息している生物も特有なものがある。しかし、だんだんグランド、ゴルフ場が多くなり、これが淀川を生かす事なのかと考えさせられる。自然と共存した淀川を未来に残したいと、強く思います。
3	日本ゴルフ場 事業協会関西 支部理事、パ ブリック河川 敷部会長 小味淵敦雄氏	×	8/1	まず第一に第 11 回委員会にて、淀川の全てのゴルフ場は「パブリック制ではなく会員制である」との断定的見解が示され委員会の報告事項となって居りました。この件について申し述べます。 設立時パブリックとして発足したのは、樟葉パブリックゴルフコース、水無瀬ゴルフ場です。セミパブリックとして発足したのは淀川ゴルフ倶楽部です。何がセミパブリックであるかと申しますと、友の会会員制度であり、正式な会員制度でない事です。ですから入会金も 1 万円であり、返済の必要性のない入会金であるという事です。阪神友の会とか巨人友の会とかと同じ部類のものであるという事です。その後昭和 53 年度よりの建設省のパブリック化の指導に従い、昭和 57 年より完全パブリックとして淀川ゴルフクラブは営業致して居ります。その他の 3 コースは会員制として発足して居りますが、53 年度よりの建設省のパブリック化の指導に従い 90%以上パブリックとして営業致して居ります。尚詳しいパブリック化の現状は 3 場の意見提出を待つ事と致します。でありますから「淀川の河川敷ゴルフ場が全て会員制である」との委員会の断定は誤りである点ご指摘申し上げます。 尚会員制の種類について申し上げます。 1. 社団法人会員制 2. 株主会員制 3. 預託金会員制 4. 一部預託金入会金制 以上の 4 種類はゴルフ場にて一般的に会員制と呼んでいるものであり、金額も高額に設定されているものです。 5 番目の会員制として友の会会員制がありますが、これは金額も安く設定されて居ります。 この分については営業的に客の固定化を目的とするもので一般的には会員制の区分けには入らないものです。 第 2 に委員の選出方法についての質問です。追加の委員が任命されているようですが、何らの紙面上の紹介もありません。委員については手当及び交通費等

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				も支給されて居る事でもあり、就任及び辞任については紙面にて詳細を報告して頂きたいと思います。 委員の選出方法を是非お教え願いたいと思います。 以上
4	佐川克弘氏		8/1	<p>現地対話集会招聘対象者に関する件</p> <p>前略 第 17 回淀川部会の会場でもお願い申し上げましたが招聘対象者の選定に関してつぎの点を配慮していただきたく重ねてお願い申し上げます。</p> <p>1) 高水敷について</p> <p>ゴルフ場の経営者だけでなく、自然保護団体たとえば(社)大阪自然環境保全協会か日本野鳥の会も招聘する。</p> <p>私個人は高水敷は、委員会の山村委員と同意見で、河川生態系に(全面的に)戻すべきだと考えていますが、よしんば一部のゴルフ場を残すとしても、せめて河川生態系の保全のために配慮することは不可欠と思われるからです。</p> <p>また沢井憲二氏から要望されている通り、ゴルフ場が存在しているために淀川本流沿いに一般の人が川に近寄れないことも問題です。このことだけで沢井氏をわざわざ招聘することもないとは思いますが、ゴルフ場は高水敷でなくても多数あるのですから、そのことを再確認したうえで意見を聴取されるようお願い申し上げます。いずれにしても「野草広場」に芝という野草でないものを植えていることは“不自然”です。また運動場も本来都市計画でつくるべきだと考えます。貧困な都市計画でチビッコたちが野球ができなくなるのは気の毒ですが、野球場を廃止して本来の自然に戻せば、コンクリートとアスファルトで固められた町中では得られない“すばらしい世界”が出現し、子供達の健全育成に役立つことでしょう。しかし代わりの野球場がすぐには出来ないとするれば、子供達を泣かせる前に大人たちが先に泣いてゴルフ場を全廃してでも当面野球場は残さざるを得ないかもしれません。ただしこの処置も無期限ではまずいと考えます。</p> <p>2) 水需要管理</p> <p>関西のダムと水道を考える会が紹介してくれた 1999 年 10 月 17 日朝日新聞によると、農業用水と大阪市の上水道、大阪府の工業用水の水余りはあまりにも極端です。このことを配慮して招聘者を選定するよう切望します。また利水問題に詳しい人、例えば本間都氏(関西水系連絡会事務局長)を招聘したらいかがでしょうか。</p> <p>追って 1) の沢井健二氏の意見につきましては平成 14 年 1 月『一般からの応募意見集』受付 NO.162 をご覧ください。</p> <p>まずは招聘者の選定についてのお願ひまで。草々</p>
5	ブライアン ウィリアムズ 氏	×	8/6	ヨシ帯造成事業のあり方についてご意見が寄せられました。 別紙 1 を参照下さい。
6	山名真由美氏	×	8/8	淀川河川敷は大勢の方の幸せや楽しみの為にあると思います。その大勢とは小さな子供や小中学生ご老人等様々です。公園として利用されていたり、野球場、テニスコート等老若男女いろいろな使用の仕方があります。その一つとしてショートコースのゴルフ場も必要ではないでしょうか。大阪という大都会で手軽に安価で利用でき、たまにお会いするご老人たちも健康もかねてと楽しそうに

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				まわっておられます。芝に農薬も使っていないし、ご近所の方に迷惑をかけていないと思います。私も足が少し悪いのですが、遠い山まで出かれられなくてもフラットの淀川のショートコースでリハビリになりました。絶対ショート・コースは必要と思います。
7	川田薫氏	×	8/8	淀川河川敷のショートコースがありとても助かっています。仕事が忙しいためなかなか山の大きなゴルフ場に行くことができずささやかな楽しみの一つとして淀川ゴルフクラブに運動、健康をかねて行っております。ぜひゴルフのショートコースを存続させて下さい。
8	萩本宏氏	×	8/11	<p>(「日本雑草学会の東北支部の機関紙「東北の雑草 2:6-13(2002)」の掲載原稿の河川敷の雑草に関する部分です。)</p> <p>除草剤の創製研究からみた雑草学と雑草管理 * 萩本宏**</p> <p>要約 雑草学と除草剤の創製研究、特に生物学的研究との関わりおよび雑草管理と除草剤の関わりについて考察した。また、わが国の除草剤の創製研究がおかれている困難な現状を企業経営の視点から考察し、雑草管理と除草剤の関係の相克から協調への転換、今後の雑草学の新しい分野としての景観や環境問題への取り組み、学会支部会への期待も併せて論じた。</p> <p>河川に係る記載部分</p> <p>著者は、雑草学の取り組むべき重要な分野として、景観や環境の問題があると考え。農村地域は、擬似自然が豊富なために景観に対する配慮を欠きかねない。他方、市街地の景観の劣悪さは、先進国を一度でも訪ねれば容易に認識できることである。著者の住む京都市は、わが国の代表的な文化観光都市かつ伝統産業由来のハイテク産業都市であるが、町並みや街路は特定の地域を除いて、古典的でもなければ近代的でもなく、美しいとは言えない。京都は、千年の王城の地という威光を背に、自然景観に恵まれている(いた?)うえに、古い建築物と庭園が点在し、芸術品や伝統行事、古典文学など先人の遺産が多いから美しいと錯覚しているが、実体は自然と遺産を食いつぶしているだけである。調和を欠いた建物と無粋な電柱電線が醜さの根源であるが、道路、空き地、堤防などの雑草の問題も無視できない。最近、著者が京都の景観で注目しているものに河川がある。街の中心を流れる鴨川(賀茂川)の景色は、最近、川らしくなり、水遊びする子供や釣り人、愛鳥家が増えた。これは、流れを自然にまかせて、中州や岸辺の土砂の堆積を残し、雑草もそのままにしたので、水流に湾曲、緩急、深淺、陰影ができて、水辺移行帯的な状況が出現し、魚や鳥が棲みよい環境になったからであると推察する。しかし、堆積した土砂には木本性植物が生え始めており、水害防止に責任をもつ行政、雑草を嫌う住民、雑草の刈り取りに反対する愛鳥家、鳥害を恐れる魚協の相互の利害対立が始まっており、雑草管理技術の確立が急がれる。また、京都は、三方を山に囲まれており、かつて赤松の多い里山で、特上の松茸を産出したが、放置されて照葉樹林に遷移するか乱開発の波にさらされている。全国で里山の再生がいわれているが、里山問題は、雑草・雑木管理を抜きにしては解決しない。京都を例に挙げたが、これらの問題は全国共通である。農村地域の景観も、給油所、パチンコ</p>

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				店、スーパー、物流倉庫などが乱雑に建てられ、決して美しいとはいえない。良い景観をつくることは、人々に安らぎを与えるとともに、草むらへの空き缶のポイ捨てや不法投棄にみられるような不道德をなくすことから気候の緩和、大気・水質浄化、土壌保全、野生生物保護など良好な環境をつくることに通ずる。市街地環境の雑草問題は、既に、2000年の第16回シンポジウム（京都）で取り上げられているが、農村地帯も含めて雑草学の領域を農業から景観と環境に、農学分野から工学分野に拡大することも検討する時期にあると考える。 以上
9	萩本宏氏	×	8/12	6/24に頂いた意見に、漁協が1日2000円を徴収している旨の記載があり、渡辺委員のご要望により、漁協名等について確認した結果、以下のような返答が届きました。 ゴールデンウィーク頃（4月末？）に、漁協の役員さんが女のお孫さんを連れて賀茂川で八工釣をされている微笑ましい写真付きの釣解説記事に掲載されていたと記憶しております。（残念ながらこの記事に掲載した京都新聞を捜せ出せませんでした）。これには、「賀茂川にはアマゴもいるが、簡単には釣れない。初心者には八工釣がよい。餌としては川虫が良いが、慣れない人には採取が困難であるから市販の練り餌を用いると良い」（大意）とあり、「2000円で1日楽しめる」というような表現で遊漁料のことが書いてあったと記憶しております。 今の時代は、八工釣の餌まで買うのか、また、2000円とは高い遊漁料だと思い、5月18日（土）に京都府立植物園に行った帰途、北大路橋袂の釣具店に立ち寄り、市販の餌と遊漁料について尋ねた次第です。 これも大昔の記憶で極めてあいまいですが、幸田露伴だったか、有名な作家が京都大学文学部の講師（？）になって京都に移り住み、川で釣りをしていて遊漁料を請求され、こんなみみっちい街で暮らせるかと東京に帰ったという話を讀んだ記憶がありますので、八工釣の遊漁料が気になった次第です。 従いまして、漁協名は存じませんが、鴨川を管理する漁協であると考えてるのが自然です。 私の方にも、聞き違いや思い込みがある可能性もありますので、遊漁料のことが確認できましたらお知らせ賜りますと幸甚です。 御活躍の程お祈り申し上げます。
10	生沢嘉男氏	×	8/19	淀川水系流域委員会様 地元東淀川に在住しております生沢嘉男と申します。 私は40年前、昭和35年頃より淀川ゴルフ倶楽部でプレーをして居ります。長年プレーをしていまして感じた点を申し上げます。まづ最初にゴルフは健康によい事です。スポーツは多々ありますが、やはりゴルフの方が面白く仲間も出来、川原のさわやかな空気が胸一杯に吸える点です。色々ゴルフに反対する風潮は続いているようですが、既にゴルフは庶民的なスポーツとなっています。又河川敷ゴルフ場とするゴルファーを贅沢よばわりするのは的を得ていないような気がします。 淀川ゴルフ倶楽部は昭和47年河川改修で大堰が出来の際、工事に協力し、大幅に縮小されてショートホールとなり、その後の営業努力により、何とか続けている等非常に気の毒な目に会って居ります。

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				<p>私は月に数回自転車で淀川ゴルフ倶楽部に来ます。私共シニアプレーヤーの夢は近場でゴルフをしたい事です。又この都会の中であるからこそ、緑のゴルフ空間を提供して頂き、多くのシニアプレーヤーが、人生の喜びを少しでも味わいたいのです。淀川ゴルフ倶楽部は安価であり手軽に近く存在するゴルフ場として、大阪市内には欠かせない緑の空間です。是非面積の増加と存続を希望して止みません。</p> <p>追記 淀川ゴルフ倶楽部は従業員も親切ですし、経営者も質素に暮らしておられます。又このような経済環境の悪い中、かなり節約されて営業努力し、維持されております。</p> <p>57年の河川工事完成迄は水害の為かなり苦しんで維持していたようです。完成後もショートホール化し営業は現在迄も大変だったと思われます。そんな中で我々をいつも笑顔で迎えてくれます。我々シニアにとってはかけがえのない存在です。</p>
11	田中静男氏	×	8/19	<p>水系管理については、御苦勞の多い事と思います。小生、河川敷をありがたく利用させております。（遊歩道、魚釣り、ゴルフ）</p> <p>ことにゴルフが好きですが年齢（77才）とともに体力もなくなり健康保持のため淀川河川敷のゴルフ場によく行きます。ゴルフ場とゴルフ場周辺は管理が行き届いておりますが、ゴルフ場を少し離れるとゴミ、電化製品、家具等が捨てられたり、又、事件が起こったりと無法地帯になっております。それらの管理をもっと良くしていただけないものでしょうか。管理面からみても河川のゴルフ場はプラスになっていると思います。</p>
12	「海洋の空」 研究グループ 赤井一昭氏	×	8/23	<p>中国からの河川整備について理解を深めるため、日中友好海洋開発訪中団(9/15～24日)についてのご案内が届きました。</p>
13	滋賀県農政水産部水産課	×	8/29	<p>滋賀県農政水産部水産課よりブライアンウィリアムズ氏（別紙1）についての意見に対し意見書が届きました。別紙2を参照下さい。</p>
14	松下正義氏	×	9/2	<p>淀川ゴルフ倶楽部への期待</p> <p>初心者も老人もいつもプレーが可能 車がなくとも公共のバス、電車の利用が可能 この不況化に手頃な値段でプレーが可能 緑の芝生から（フェアウェイ）市街地のビルが遠望できる 庶民の憩の場としてのんびりとプレーできる</p> <p>以上の条件により行政はゴルフ場の整備に援助、協力して広報誌等で広く紹介していただきたい。このゴルフ場は日本のパブリックゴルフ場として伝統ある灯を消さないで存続して下さることを切に期待するものの一人であります。</p>
15	金屋敷忠義氏		9/6	<p>委員会の運営について意見があります。</p> <p>一般から提出された意見に対して、委員会側からは何の反応が無い。聞きおくだけであるように見える。</p> <p>傍聴者の発言に対しても、同様に反応が無い。</p> <p>委員会の委員は「民には、言はしむべし、聞かせるべからず。」と考えているのか。</p> <p>提出された意見は「中間取り纏め」に於いて反映していると言うのか知ら</p>

	発言者 所属等	傍聴 希望	受取 日	内 容
				<p>ないが、少なくとも、取り上げられなかった意見に対しては、委員会の意見または委員個人の意見としてでもよいから、反応を示すべきである。提出された意見を無視するのはよくない。</p> <p>今まで発表された「中間取り纏め」でも無視されたか或いは採用されなかった意見が非常に多い。</p> <p>流域委員会の存在は一般には殆ど知られていない。この事実を委員諸公は充分認識しておく必要がある。一度事務局にでも使って、「流域委員会の知名度」を無作為に調査する必要を感じないのか。サイレントマジョリティの存在を忘れてはならない。</p> <p>調査に当たっては、答えを誘導するような設問は厳に避けなければならない。</p> <p>公開されている委員会の場で河川管理者側の事情説明はあっても、意見はまったく聞かれない。これでは議論を深めることは出来ない。</p> <p>敢えて言えば、委員の構成に偏りがある。</p>

## ヨシ帯造成事業のあり方

意見書

ブライアン ウィリアムズ

終戦後、人間活動により琵琶湖周辺のヨシ群落の面積が圧倒的に減らされて来ました。

まず内湖の干拓事業で、飛行場を含む伊丹市の広さ以上の面積が消えました。続いて琵琶湖総合開発事業により湖岸沿いのヨシ群落の大部分（7～9割）が破壊されました。

当時の開発のあり方に疑問を持った学者団体がヨシの重要性を訴えましたが、無視されてしまいました。遅すぎると言える時期になって、ヨシの大切さが認められ、ヨシ保護条例ができ、更にヨシ帯造成対策が生まれました。遅かりしですが、こうしてヨシ群落の大切な役割がやっと認められるようになったのはありがたいことです。

しかし、そのヨシ帯造成事業のあり方を探ってみると、大きく疑問を持つようになります。数年前から県の水産課が最初、今津町と長命寺港近辺、現在は琵琶湖博物館の南に広がる津田江入江でこの事業を行っています。続いて、湖北の早崎内湖近辺で広範囲にこの事業を予定して、すでに工事の一部が着工されています。

聞くとところによると、水産課の設計したヨシ帯造成工事は1ヘクタール当たり、12億円かかるそうです。その内実際ヨシを植えることにかかる費用は、多くて4分の1に過ぎません。残りは石垣、離岸堤、又はバラスの入った針金でできた“ふとん籠”等に使われるそうです。なぜ12億円もかかるのでしょうか。経験者の話を聞くと、ヨシは適正な場所に植えれば、ヨシ自体が勝手に増え、調子良く育って持続するヨシ帯になっていく、でも不適切な場所に植えられるとかなり無理をしないと成果がさほど期待できないということです。

1ヘクタール12億円。水産課が今のあり方でのヨシ造成工事で成果があると言い続けていますが、どこまでの成果があるかという事を裏付けるデータがさほど出されていません。しっかりした研究に基づいて、十分な成果を証明した

上でないと何億円も使い続ける事に意味があるのでしょうか。 費用対効果のバランスは適正でしょうか。 きっとこのことをふまえて、景観破壊も加えて浅井漁業協同組合が造成事業を許可しなかったのでしょうか。

更に、大切なポイントとして、景観問題です。 水産課のすでに行った工事と予定してる工事の場所は、なぜかすべて琵琶湖の原風景がまだかろうじて残っていた所、そして、まだ残っている所であります。こういった(資料写真参照)野性味があって、近自然な状態で生き残っている場所は広い琵琶湖の中でも極めて少ないのです。 どうしてそういう所に限って美意識がゼロと言えるような設計で工事をするようになったのでしょうか。今は消えてしまってますが、昔、広く続いていたヨシ群落のあった所が沢山あります。 どうしてそういう所こそ復元しようとしないのでしょうか？

今までも、これから工事を行おうとしている所も、まだなんとかかろうじて自然が残っている所なのです。 これ以上人の手を人工的に入れてはいけない所なのです。

水産課のヨシ造成工事の設計は景観に対する美意識が欠けていると言える上に、生態系学の理解も少ないと言えます。 ヨシだけを増やせばよいといっているようです。 安定した持続可能なヨシ群落という生態系の中に、ヨシ意外に色々な種類の動植物が共存しています。 こういった“安定型”ヨシ群落生態系を復元しないと、モロコ、ニゴロ鮎などの安定した人口を支えることが不可能です。南湖の漁師の名言に“魚は自然が好き”、この言葉を忘れる事なくヨシ帯造成事業を進めていかないと、景観破壊と共に税金の無駄遣いとなります。





1- a

誰も知らない風致地区、草津市にあるつだえ...

3



1- b

遠景に三上山、比叡山、比良など  
近景には野性味の残っている湖の原風景



2- a

この美しい風景がこの秋に県の水産化の事業により



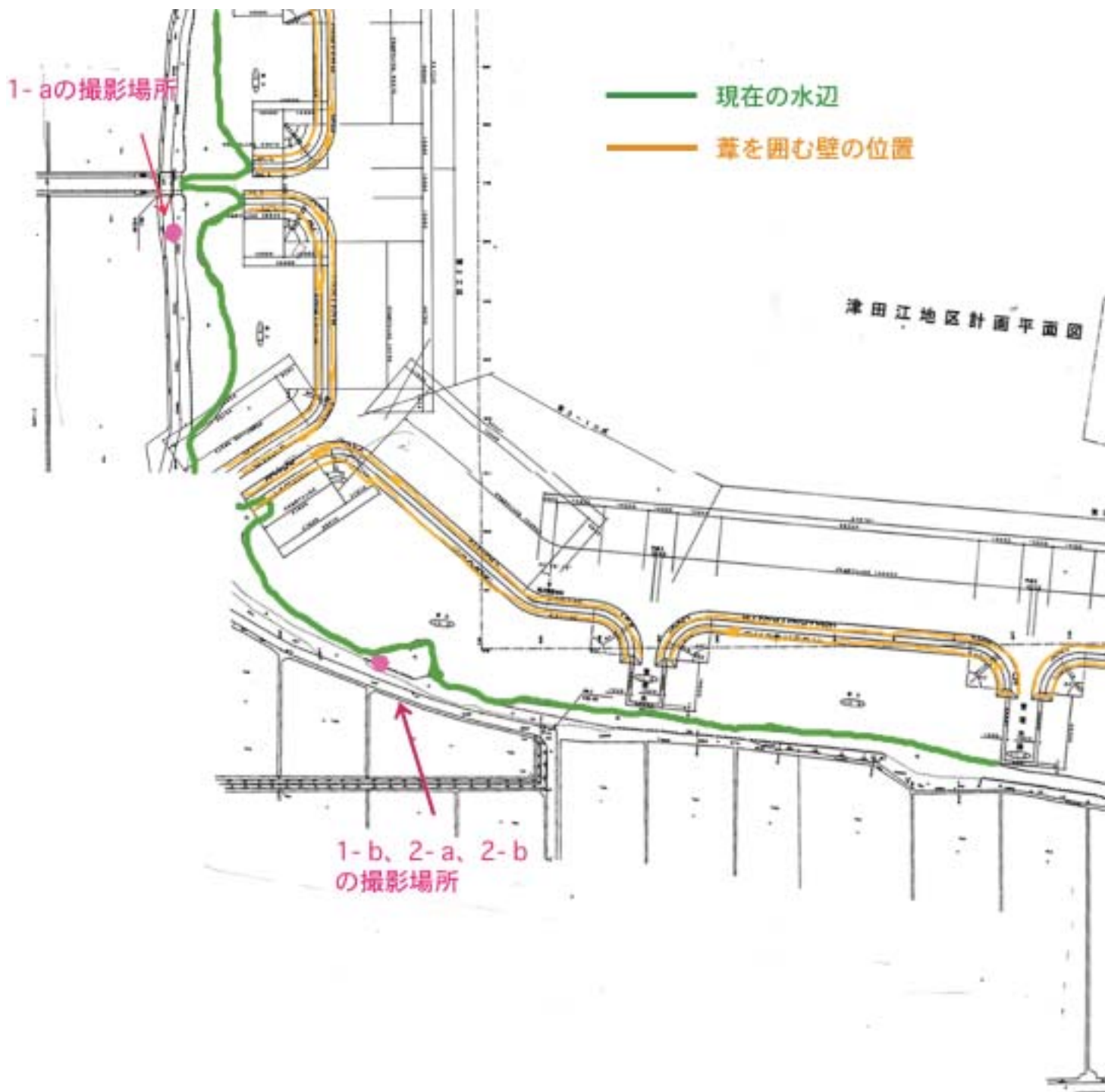
2- b

直線化され台無しにされます。  
その事業の目的を果たすのに、もっと良い方法があるのではないのでしょうか。

# 津田江葦帯造型設計図

- 現在の水辺
- 工事済み (ふとんかごによる囲い)
- 工事予定





3- a



津田江の一部がもう既に、このように  
つくり換えられました。

3- b



葦の生えている面積は増えましたが、  
一定の高さに整えられ、水のほとりも  
針金でくくられた石で直線化されました。



3- c

ほんもろこ、にごろ鮒は  
産卵できますが、生態系が  
単純化されたに違いない。  
ここで豊富な種類の生物が  
生存できるのだろうか。  
はたして、安定した食物連  
鎖が望めるのだろうか。  
少なくとも直線化され、単  
純化された景観には美的感覚  
はない。



津田江の東北部の造成工事中。情緒のあった水辺が直線化される光景



シミュレーションで作成した、より望ましい葦帯造成案。  
葦のみの単純化された生態系より 柳など他の植物も混ざったバリエーションの  
豊富な葦群落。美しい不規則的な曲線で 景観復元にも役にたつ



シミュレーションで作成した 景観創りにも役立つ造成事業案  
沖に 柳などまざった葦群落でできた小さい島



ヨシ帯造成事業以前の正常な葦の姿



滋 水 第 779 号  
平成14年(2002年) 8月28日

淀川水系流域委員会 庶務 御中

滋賀県農政水産部水産課長



意見書の提出について

貴委員会第17回琵琶湖部会参考資料2-1に掲載されました、ブライアン ウィリアムズ氏の意見「ヨシ帯造成のあり方」に対し、別紙のとおり意見書を提出しますので、よろしくお取り計らい願います。

担当者  
漁場資源担当 福井  
TEL 077-528-3874  
FAX 077-528-4885



## 滋賀県農政水産部水産課

先日、当課の実施しておりますヨシ帯造成について、ブライアン ウィリアムズ氏の意見書が流域委員会に寄せられました。意見書の中には、誤解や事実と異なる点がいくつかありましたので、改めて当課の実施しているヨシ帯造成について紹介させていただきます。

近年琵琶湖では、ニゴロブナ等の産卵繁殖場として重要な役割を果たしているヨシ帯が、減少しています。このため、当課では魚類の産卵繁殖場としてのヨシ帯を回復しようと、その造成に取り組んでいます。今までに近江八幡市および新旭町で事業を実施し、今年度は草津市およびびわ町地先の琵琶湖で事業を実施する計画です。

事業を実施する場所は、以前にヨシ帯が広がっていたが現在は衰退した水域を中心に、地元の市・町や漁業者の方等関係者の意見を聞いて決定しており、事業の実施にあたっては、関係者の方の理解を得て協力して頂いています。

当課の実施していますヨシ帯の構造について説明します。琵琶湖沿岸においてヨシの伸長に適した水深（30cm）まで土を盛って、そこにヨシを植栽しています。盛った土はそのままでは風波等により流失しますので、琵琶湖側には石を台形に、また魚の出入り口となる部分には、フトン籠（金網の籠の中に石を積めた物）積んでいます。ニゴロブナ等の稚魚が育つヨシ帯は、奥行きのあるものが好ましいので、水深などを検討しながら、なるべく奥行きのある形状としています。また、事業費については1ヘクタールあたり2億円をやや下回る経費がかかっています。

今までに完成したヨシ帯は、比較的順調な生育をみせており、春には魚の産卵も確認されております。今後も継続した調査を実施し、これからの事業に生かしていきたいと考えています。

# ヨシ帯造成 標準断面図

